

熊本商工会議所
2010年経済予測アンケート
結果報告書

KEY WORD

- ★ 景気の現状…「かなり悪化」が39%でトップ
次いで「やや悪化」が34%
- ★ 景気の回復予測…「わからない」が34%とトップ、
次いで「2011年から」が28%、
そして「2010年下期から」が19%
- ★ 産業別予測…「かなり悪化」－「建設業」
「やや悪化」－「製造業」「運輸・通信業」「卸売・小売業」「飲食業」「サービス業」
「変わらない」－「金融・保険業」
～ほとんどの業種で悪化を予測～
- ★ 円相場は「やや円高」を予測
- ★ 株相場は「やや株安」を予測
- ★ 金利は「やや低金利」を予測
- ★ 経営上の問題点は「営業利益の低下」が57%でトップ
- ★ 「収益」と「人材育成」を重視、「新分野への進出」には慎重姿勢

熊本商工会議所

2009年12月

＜本調査のお問い合わせ＞
熊本商工会議所 会員サービス部 情報調査課
TEL354-6688 FAX354-8890

熊本商工会議所
2010年経済予測アンケート

I N D E X

1. 調査概要	1
2. 景 気	2
3. 産業別予測	3
4. 円 市 場	7
5. 株 式 市 場	8
6. 金 利	9
7. 経営の問題点	10
8. 経営の重視度	11

※巻末…「2010年経済予測アンケート」調査用紙

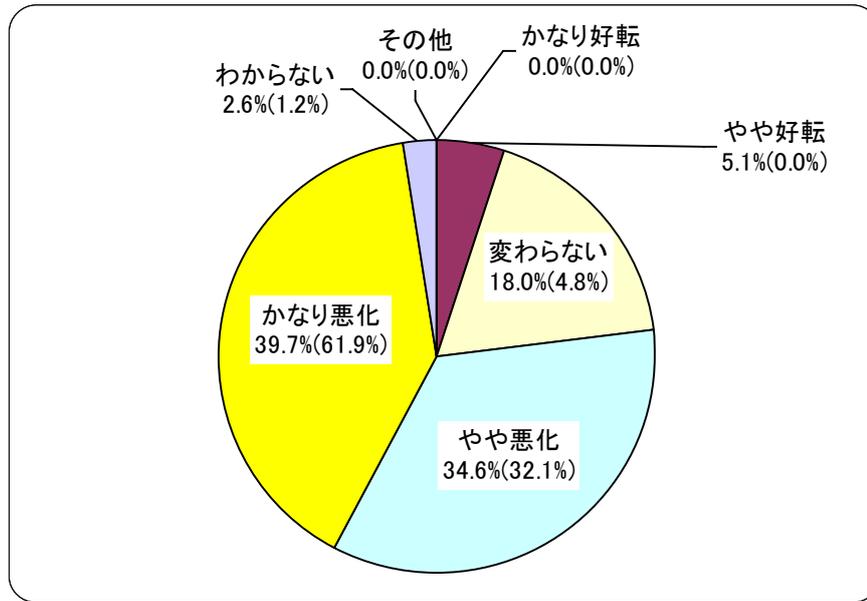
調 査 概 要

1. 調査期間 平成21年11月18日(水)～11月25日(水)
2. 対象者 熊本商工会議所 役員並びに議員
3. 配布数 102名(101企業・団体)
4. 調査方法 調査用紙配布:郵送 調査票回収:FAX
5. 回答者数 78名(有効回答率76.5%)
6. 調査機関 熊本商工会議所

2010年 景気の現状

※グラフ内の()については、前年数値です。

「かなり悪化」39.7%、「やや悪化」34.6%



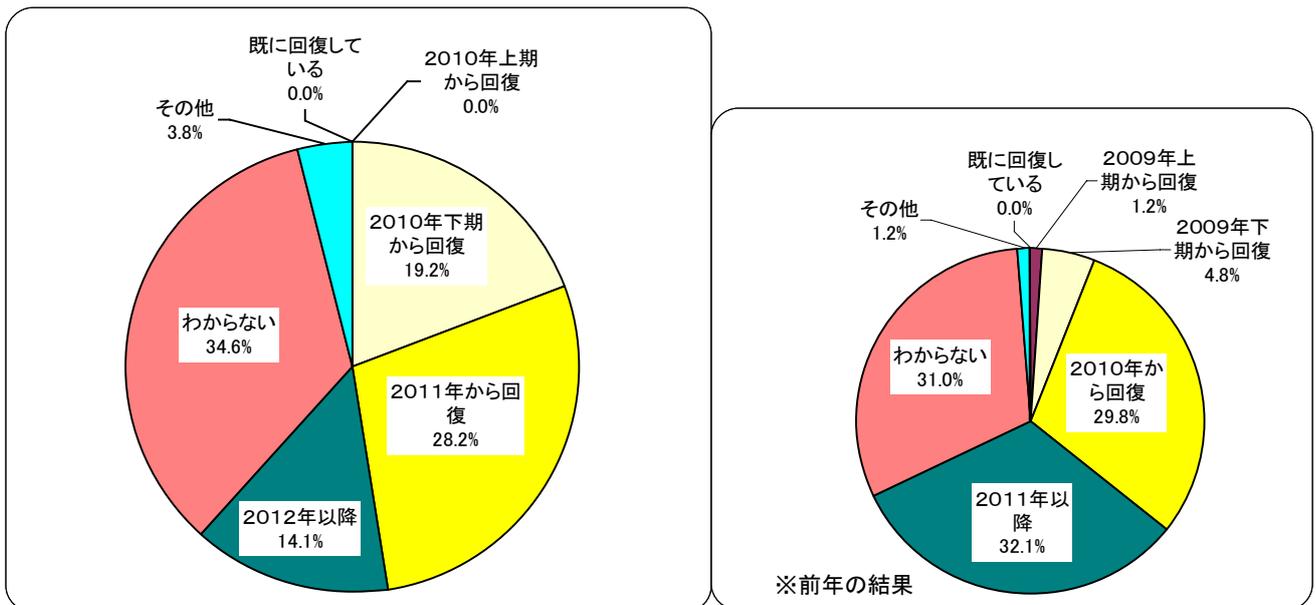
景気の現状(2009年11月中旬)について、「かなり悪化」が39.7%(対前年比22.2ポイント減)でトップ、次いで「やや悪化」が34.6%(対前年比2.5ポイント増)、「そして「変わらない」が18.0%(対前年比13.2ポイント増)となった。

「かなり悪化」と「やや悪化」を合わせると74.3%(対前年比19.7ポイント減)で、依然厳しい現況ではあるものの、前年に比べ「悪化」の割合は約20ポイント減少した。

2010年 景気の回復時期

※グラフ内の()については、前年数値です。

「わからない」が34.6%でトップとなったものの、「2011年から回復」が28.2%、「2010年下期から回復」は19.2%



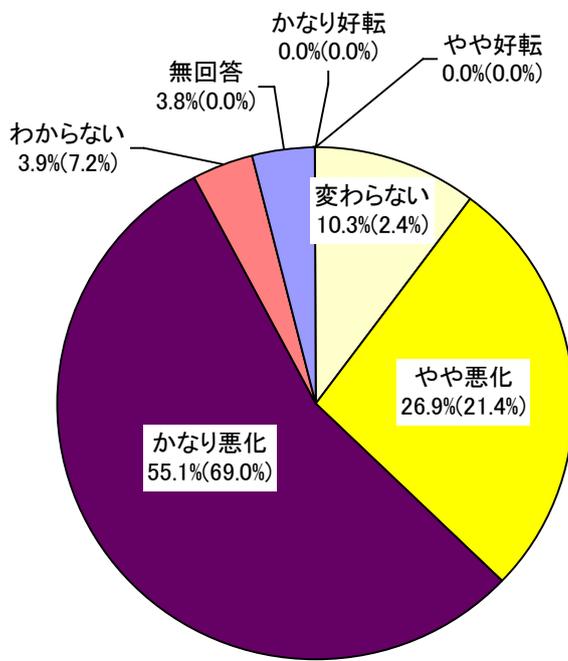
景気の回復時期については、「2011年から回復」が28.2%、次いで「2010年下期から回復」が19.2%と、2年以内の回復予測が47.4%(対前年比12.8ポイント増)となり、前年に比べ回復時期がやや早まるとの予測となった。

2010年 産業別動向

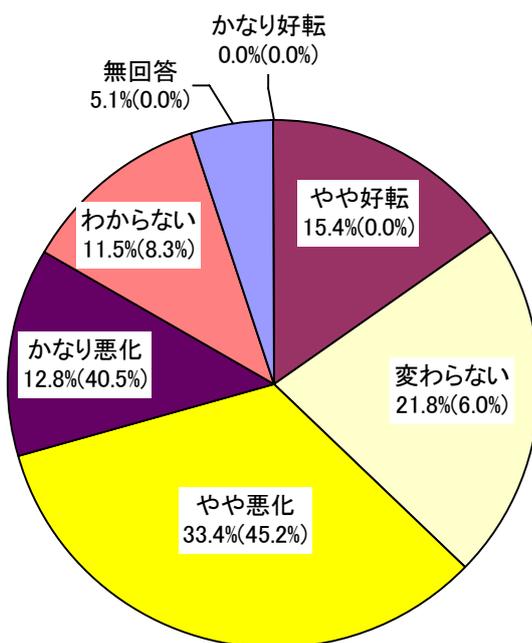
※グラフ内の()については、前年数値です。

産 業 別

建 設 業



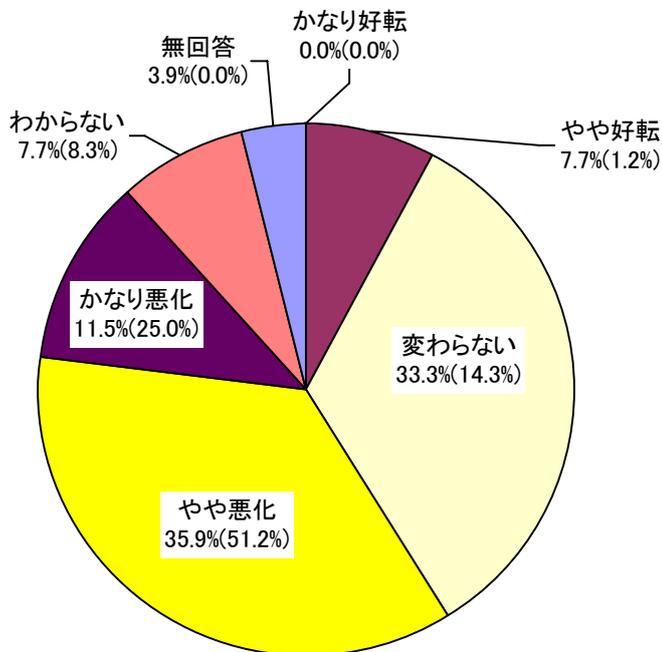
製 造 業



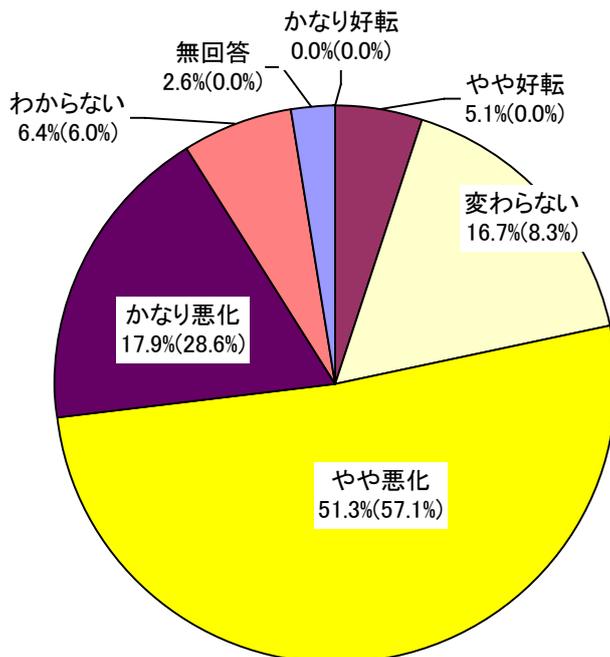
2010年 産業別動向

※グラフ内の()については、前年数値です。

運輸・通信業



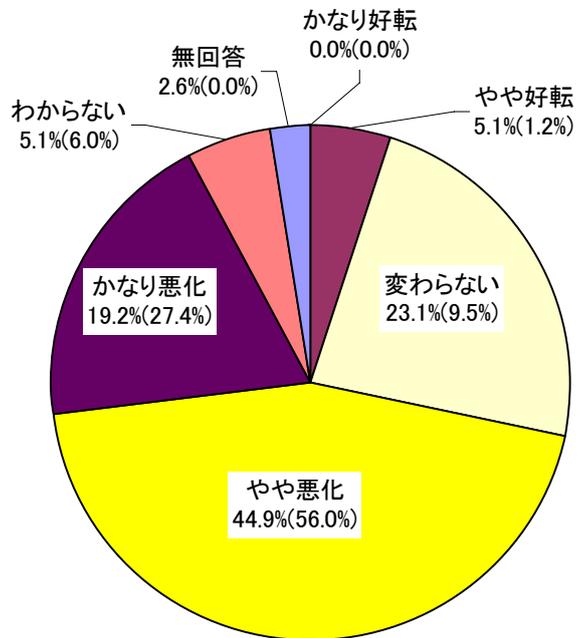
卸売・小売



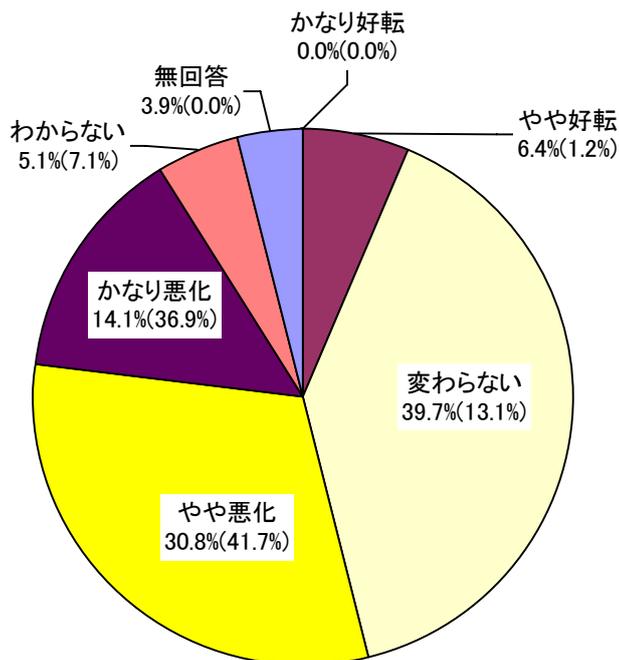
2010年 産業別動向

※グラフ内の()については、前年数値です。

飲食業



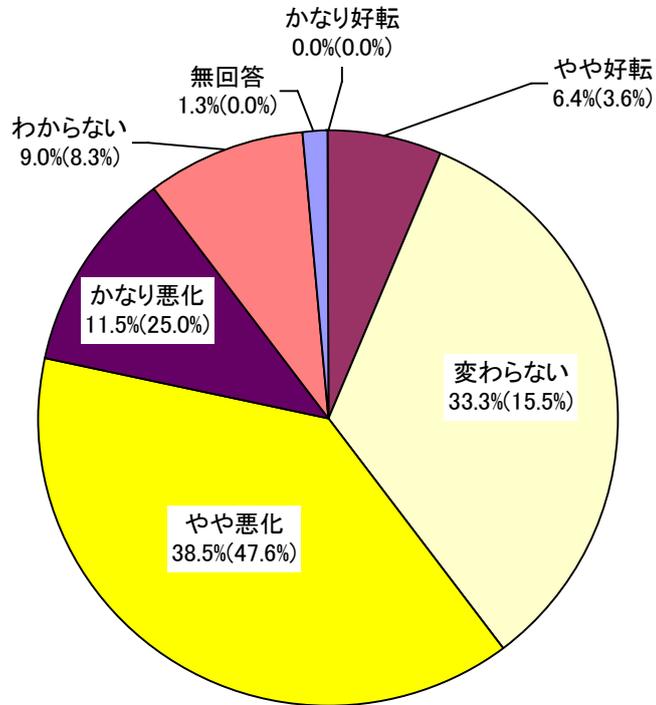
金融・保険業



2010年 産業別動向

※グラフ内の()については、前年数値です。

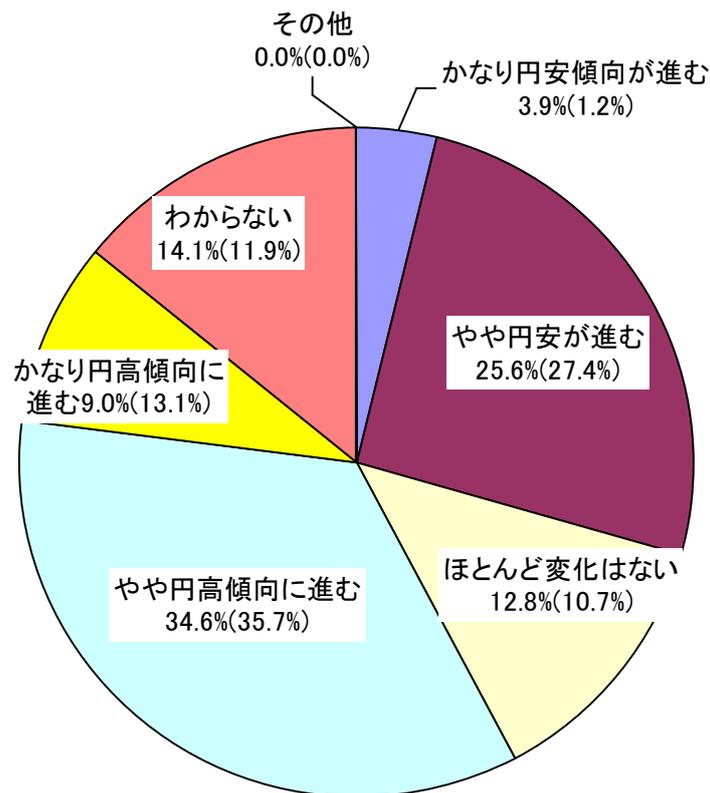
サービス業



円市場予測

※グラフ内の()については、前年数値です。

「やや円高」が34.6%、「やや円安」は25.6%

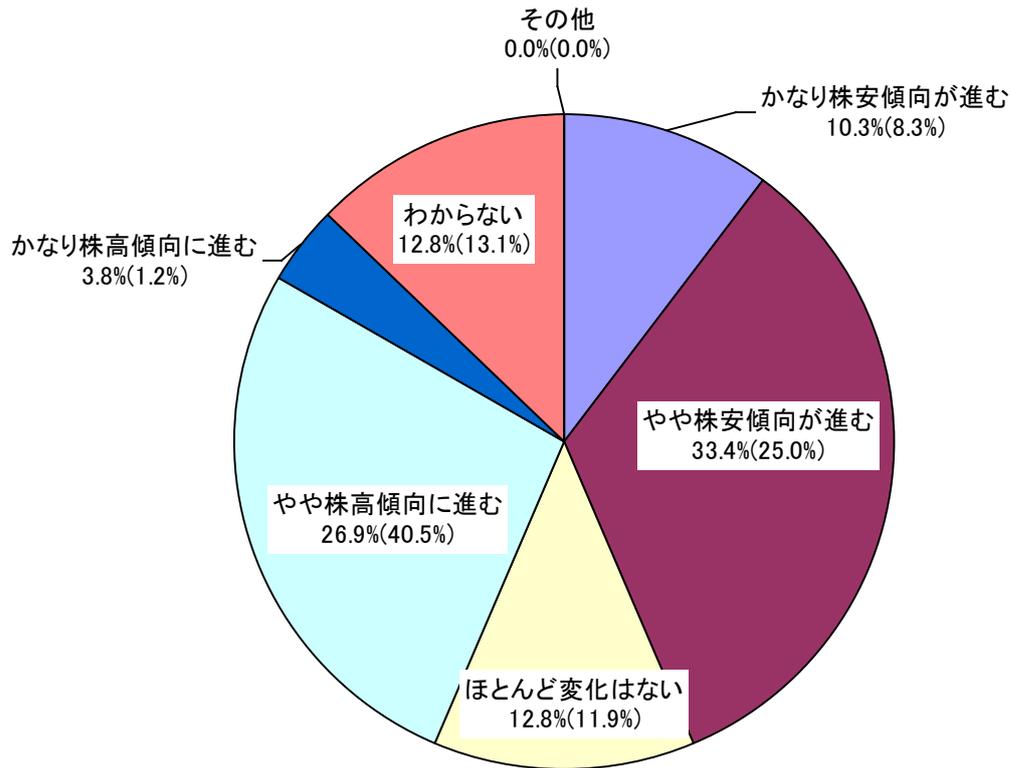


円市場の推移予測は、「やや円高」が34.6%（対前年比1.1ポイント減）、次いで「やや円安」が25.6%（対前年比1.8ポイント減）で、「かなり円高」と「やや円高」を合わせると43.6%、「ほとんど変化はない」を入れると56.4%となり、依然円高傾向が続くと予測される結果となった。

株式市場予測

※グラフ内の()については、前年数値です。

「やや株安」が33.4%、「やや株高」は26.9%、

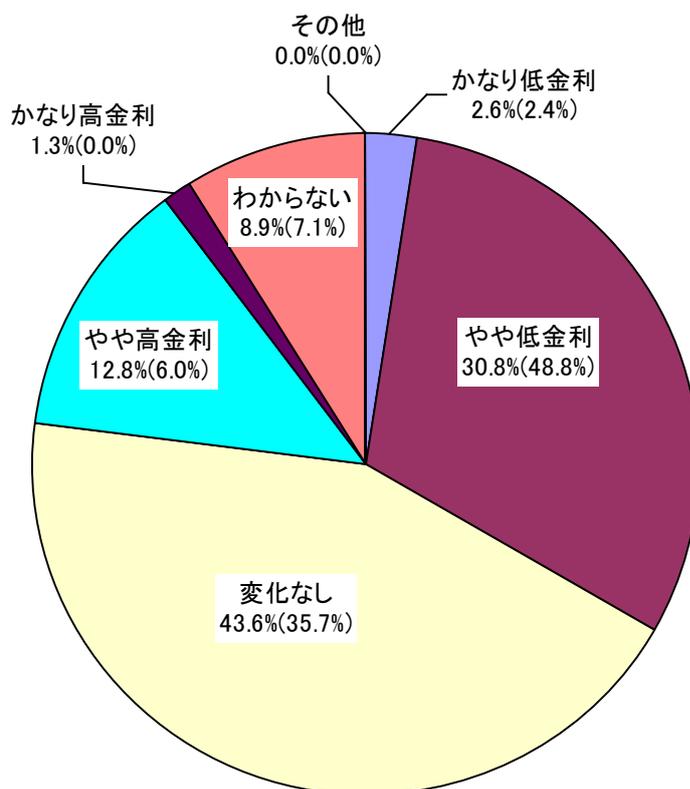


株式市場の推移予測は、「やや株安」が33.4%（対前年比8.4ポイント増）、「やや株高」が26.9%（対前年比13.6ポイント減）、次いで「変化なし」の12.8%となった。「やや株安」と「かなり株安」を合わせると43.7%（対前年比10.4ポイント増）と大方の見方としては、株安の傾向に進むとの予想となった。

金利予測

※グラフ内の()については、前年数値です。

「変化なし」43.6%、「やや低金利」30.8%



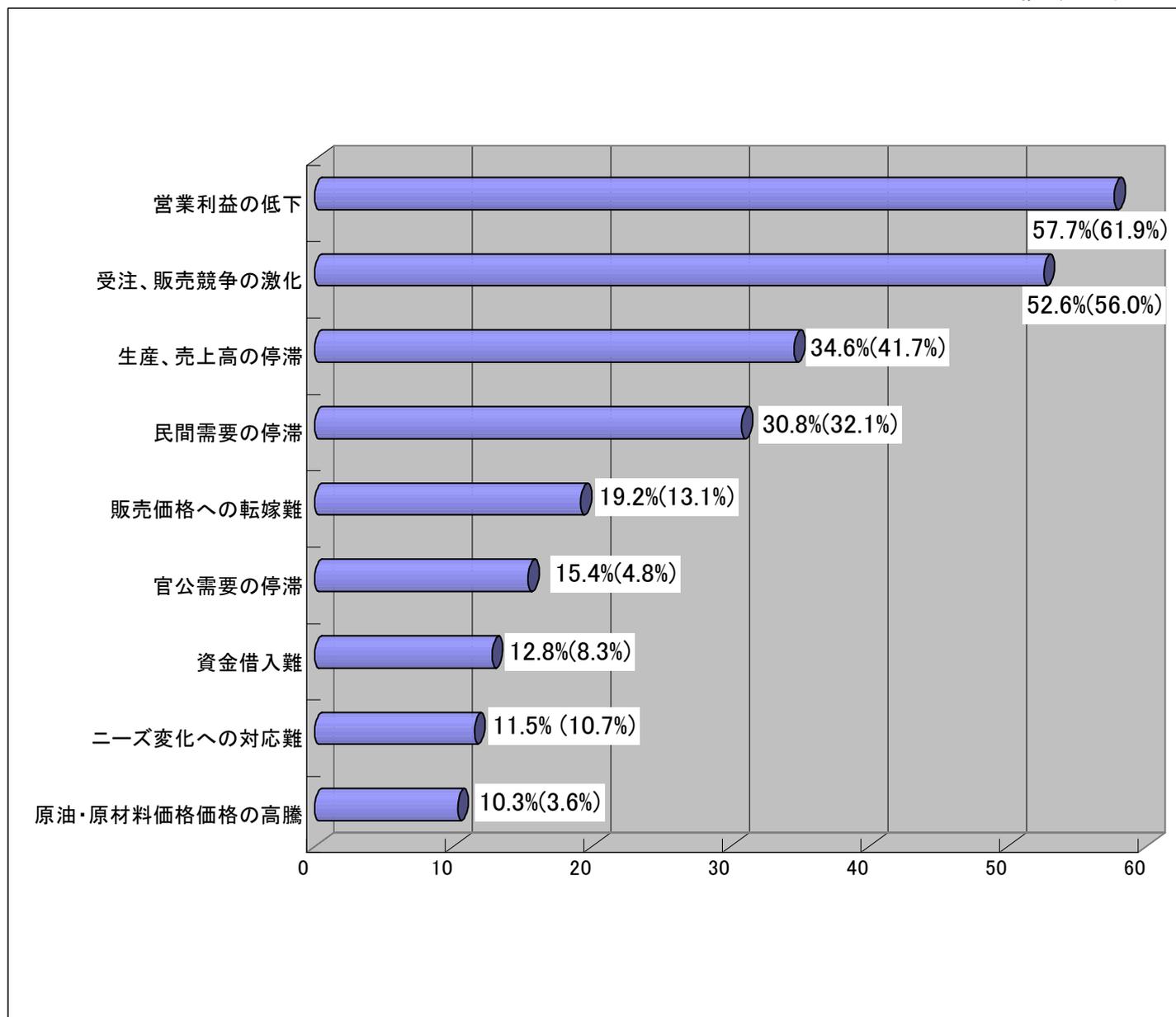
金利の推移予測では、「変化なし」が43.6%（対前年比7.9ポイント増）でトップ、次いで「やや低金利」が30.8%（対前年比18.0ポイント減）、「やや高金利」は12.8%（対前年比6.8ポイント増）と、依然低金利が続く予想となった。

経営上の問題点

※グラフ内の()については、前年数値です。

トップは「利益の低下」、次いで「販売競争の激化」、「売上高停滞」

(複数回答)

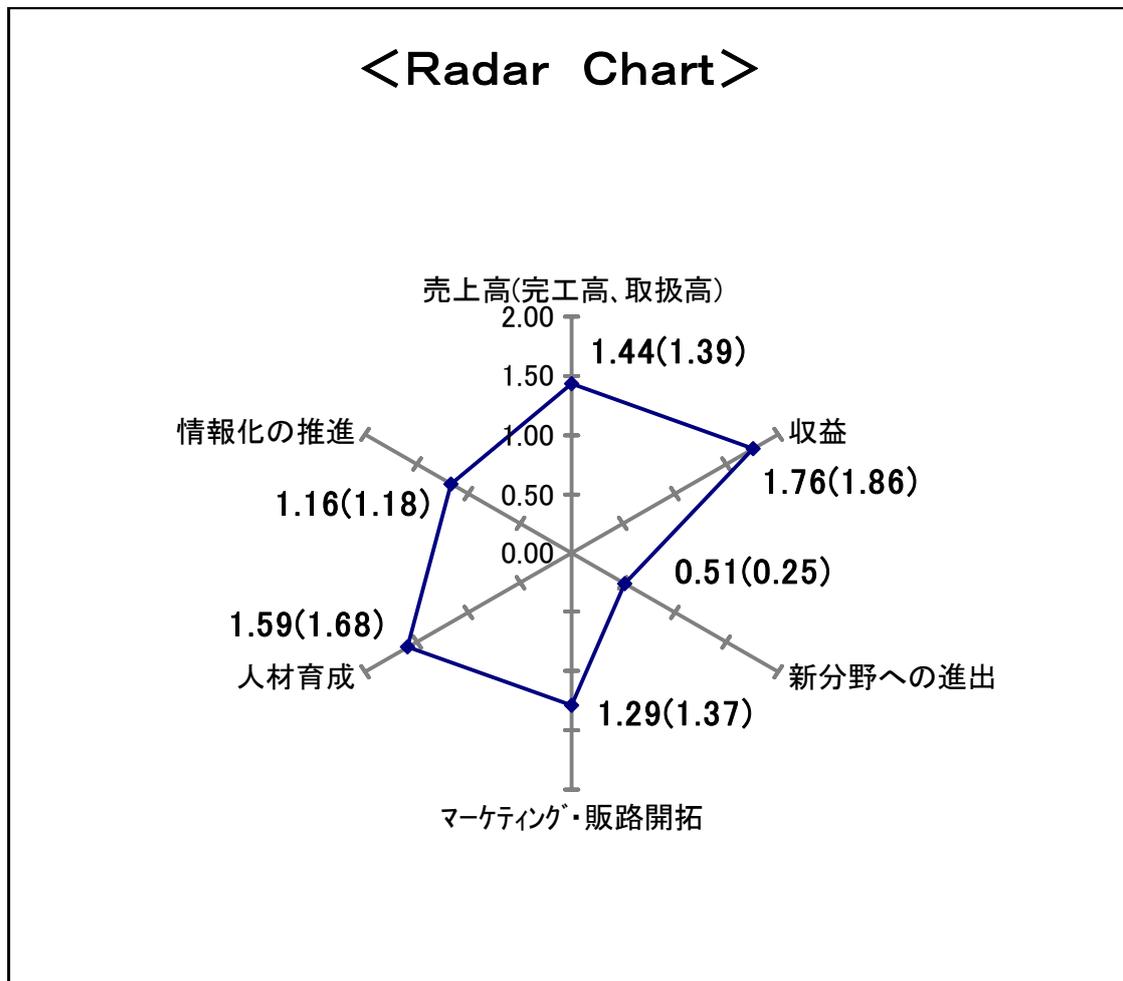


経営上の問題点としては、「営業利益の低下」57.7%(対前年比4.2ポイント減)、「受注・販売競争の激化」52.6%(対前年比3.4ポイント減)、「売上高停滞」34.6%(対前年比7.1ポイント減)となり、価格競争の激化による採算の悪化が窺える結果となった。また「官公需要の停滞」が15.4%と前年と比べ10.6ポイント増となり、公共工事の削減や事業予算の縮減など新政権の政策への不安も予測される結果となった。

経営の重視度

※グラフ内の()については、前年数値です。

「収益」と「人材育成」重視の傾向が続く～「新分野進出」には慎重姿勢～



上のレーダーチャートは、「重視度」をポイント換算し作成したもの。

(※)それによると、2010年における経営の重視度は、「収益」「人材育成」「売上高(完工高、取扱高)」の3つの面で重視ポイントが高く、「マーケティング・販路拡大」については昨年と比べわずかながらポイントを下げる結果となった。また、「新分野への進出」については、ポイントは低く、慎重姿勢が窺える。

売上高については「(かなり+やや)重視する」が93.6%(対前年比0.5ポイント減)、収益では「(かなり+やや)重視する」が98.7%(対前年比1.3ポイント減)、人材育成では「(かなり+やや)重視する」が94.9%(対前年比2.8ポイント減)となった。

「かなり重視する」の比較では、売上高の55.1%に比して、収益は76.9%と当然のことながら「利益効率」を重視する傾向が窺える。

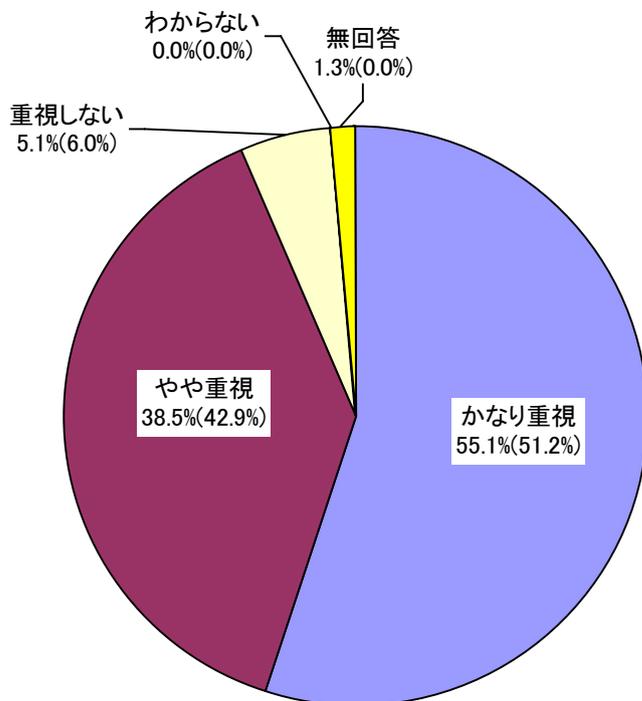
マーケティング・販路開拓については、「(かなり+やや)重視する」が91.0%(対前年比3.0ポイント増)、情報化の推進は、「(かなり+やや)重視する」が89.7%(対前年比0.4ポイント増)という結果であった。

※ 「かなり重視」をプラス2、「やや重視」をプラス1、「重視しない」をマイナス1としてトータルポイントを算出し、総回答から「わからない」と回答した人数を引いた数で割ったもの

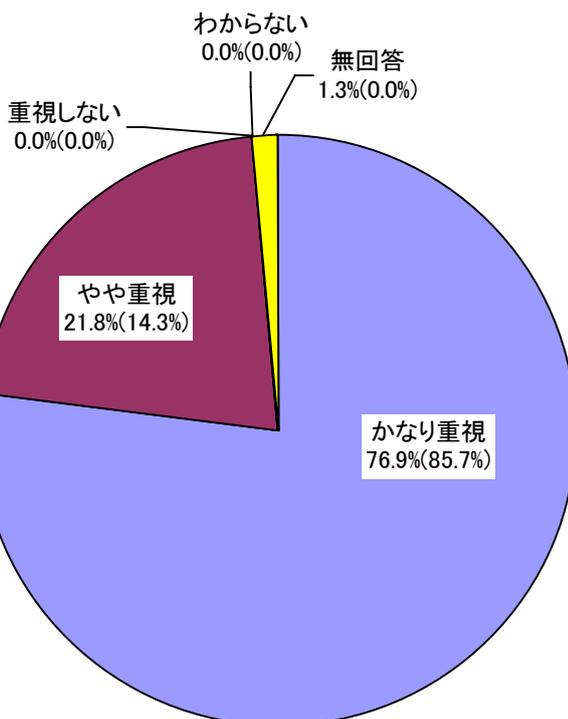
経営の重視点

※グラフ内の()については、前年数値です。

<売上高> 「かなり重視」55.1%



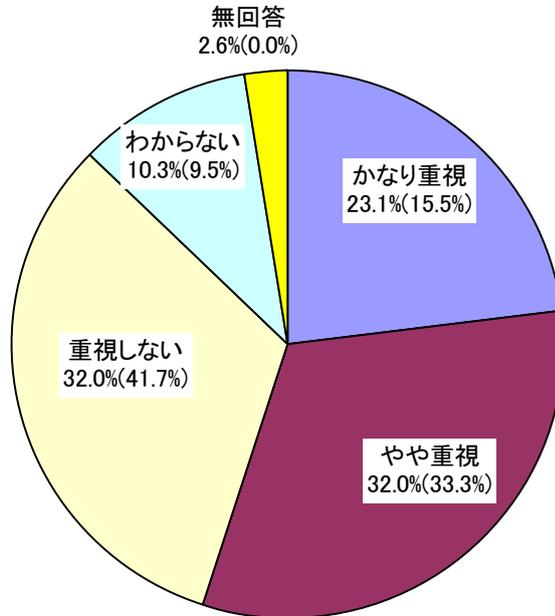
<収益> 「かなり重視」76.9%



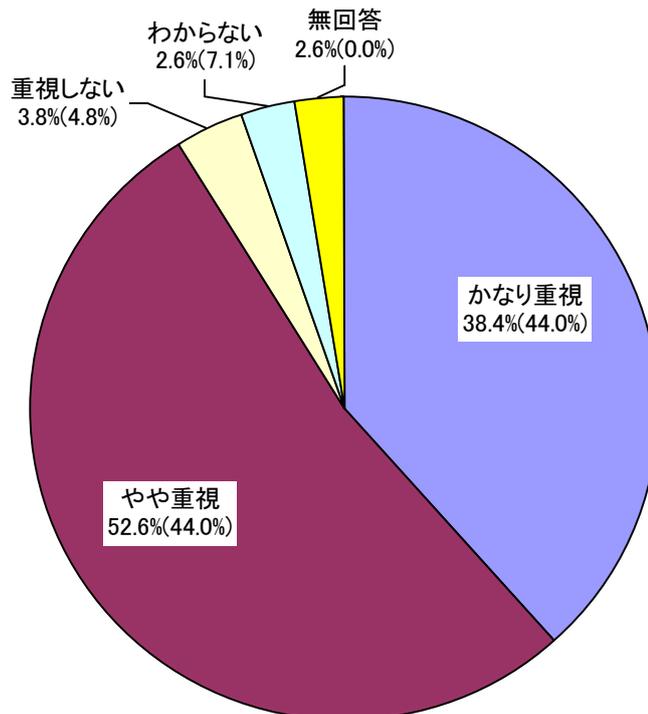
経営の重視点

※グラフ内の()については、前年数値です。

<新分野への進出>
「やや重視」、「重視しない」32.0%



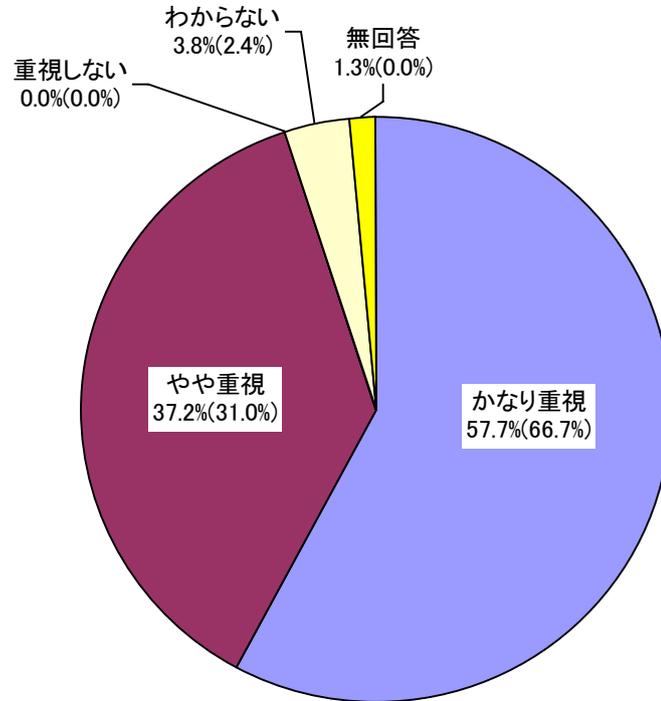
<マーケティング・販路開拓>
「やや重視」52.6%



経営の重視点

※グラフ内の()については、前年数値です。

<人材育成> 「かなり重視」57.7%



<情報化の推進> 「やや重視」69.2%

